

リにして坐に付、風爐右の方宗安より十人任尺末座、八疊敷自分初め十人善次末座、二の間床に利休像掛る、三疊敷金風爐に大阿彌陀堂掛、長四疊に宗也、宗鎮、道圓、喜齋、右は茶のます、玄關に立賢、宗哲、筆者如水、三疊敷に秋波、宗閑、棗の蓋に胡粉を以て六二を付る、流芳茶二服ツ、一度に點る也、試みあり、試すみて菓子口取を出す、此茶カブキ客の茶なし、札入は十種香の札入借り用ゆ、尤茶の目掛て左のカシバ之上段の柱に掛試、此通圖す、

○片岡 森 馬場 上林 竹田

片岡	森	馬場	上林	竹田
宗安	宗安	宗安	宗安	宗安

昔の札一枚宛なれど、流芳五枚ツ、ゆるす也、此札五枚ツ、一人前也、棗の蓋のうらには紙有、蓋の上に胡粉を以て流芳合紋を作る也、不善、

アタリ、宗安ニ、山下總左衛門ニ、知仙院、自分、

右濟て、一汁一菜の非時を出す也、

良休居士年忌二十五回忌成、此年流芳高野へ參詣あり、正徳五乙未年也、良休居士卒年は、

元祿四辛未年七月十九日也、追善茶カブキの様子、いまだ其式も治定せる事なしと見へたり、

〔東都歲事記三〕廿八日、品川東海寺中少林院利休忌千家の茶人集會して、茶の湯の七事を行ふ、